

「外国人留学生 防災学ぶ 三原 集合住宅管理会社が企画」



外国人留学生を対象にした防災イベントが22日、三原市宮沖の三原国際外語学院であった。隣接する集合住宅を管理す

訓練用の消火器で初期消火の手順を確認する留学生

るビレッジハウス・マネジメント（東京）が、地域防災力の向上と多文化共生の実現を目指して企画した。

同学院に通う留学生111人が参加。三原消防署員から、訓練用消火器を使った初期消火や心臓マッサージの手順を教わったほか、避難所で使う

段ボールベッドを仲間と協力して組み立てた。市防災士ネットワークの岡本正治副会長（77）は「非常食や防災グッズを紹介し、「命を守るために、普段からの備えが大ごと」と呼びかけた。

シンガポール出身で昨年4月に来日したナタリー・ジョイ・ウォンさん

（24）は「母国では地震や津波はない。学んだ知識を生かして、周りの人を助ける行動をしたい」と話した。

同社は全国で賃貸住宅を管理、運営し、外国人入居者を対象に各地で防災イベントを開いている。県内では初めて。

（岩崎新）